



発行所  
青山同窓会  
新潟市関屋下川原町二  
新潟高校内  
印刷所 オリオン印刷機  
0252-83-2151

# 新年のごあいさつ

青山同窓会々長 鍵 富清一郎



## 随想

経済の高度成長はすべての面で、わが国の生き物の生活に変化をもたらした。「世話が面倒くさい、金にならない」そのひとことで、ニワトリは農家の庭先から姿を消した。転居先は、八間にも延びる針金アパート、場所によっては三、四階建。向う二軒隣り、来る日も来る日も卵を産むこと、ふとること。「雨ハラズ、風モフカズ。冬ハ寒サモナク、夏ハ暑サモナク。タダ卵ヲ産ミ、肉ヲツケ。

みなさん、あけまして、おめでとうございます。

昨年の夏の総会は、数年振りに会場もわかり、時間もかわったので、幕をあけてみるまで、どうなるかと心配でしたが、千人を越す人々が集まり、大変うれしかったです。今年も又、皆さん誘い合



## メジロ ビニールハウス

確か朝日新聞であった。祭の夜店で売られていたヒヨコのゆく末は、世間にもちあふれるものに毒されず、生きのびたひな鳥たちは私は抱きすくめたい。報

## 《紙面紹介》

- 1面 新年のごあいさつ  
55年度総会  
東京青山同窓会
- 2面 反省と喜びと  
渡部修治さんと逝  
去と秋紳道人  
追悼内山巖先生  
(寄稿)30回而立会  
青山波柿会
- 3面 酒中の仙  
北海道よりの便り  
二十年振りの新潟  
娘の卒業式に参列  
して思うこと  
折り返し点「20年  
振りの旧友」  
山岳会
- 4面 クラス会・諸会合  
昭55年度総会  
「写真特集」

# 総会に 1,000人集う



# 55年度総会

青山同窓会の昭和五十五年度総会は、七月十六日(水)午後六時から新潟市オークラホテルで開いた。四階末広の間と白鳥の間、その間のロビーまでも一つにないだ大会場を九百余の会員が埋めた。前年病気で切歯やく腕した鍵富会長が元気であいさつ、来賓祝辞のち、事業報告、五十四年度決算、五十五年予算案の各案を原案どおり承認、可決して懇親会に移った。22回卒中沢信吉氏の音頭で乾杯、

それぞれグループをなして歓談、八時近まで熱気が会場に満ちた。出席者はピーク時には一千人に達しようという、空前の大総会だった。

△面へ続く

# 東京青山同窓会

東京大手町、例のKDDのすぐ近く、農協ホール九階、恒例となつたこの場所、十一月二十一日、昭和五十五年度総会は約三百名近くの会員を迎えて六時開会。

南学会長の挨拶。年々上京する後輩大学生を迎え入れるための頼れる組織として実力を持つ会にしたいとのこと。田中幹事長の事業ならびに活動経過報告があつてから来賓として阿部藤策本部副会長挨拶。昭和五十七年、母校が九十年記念の年を迎えるので、格段の御協力をお願いする旨。最後に

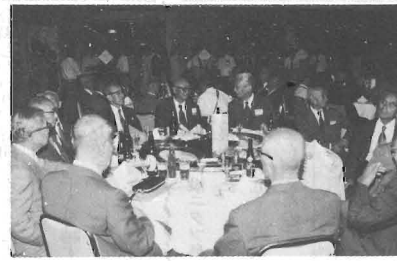
# 反省と喜びと

## 55年度総会のあと

（面より続く）

長い間なじみになった「香港」を変えようということについて、実行委員会でも賛否いろいろあった。その要旨は、前にもこの会報で書いたとおりで、①香港では女性会員が出席しにくい。②四時からの総会では、仕事の実情から出席できない人が多い。③香港以外に新潟市内で広い宴会場を持つのはオークラホテルだが、それでも全員は座れない。立食パーティーでよいのか。④ホテルにするか経費が高くなる。会費値上げの可否、実質落ちの懸念をどう見るか――などであった。結局は試行錯誤賞悟のオークラホテル開催となり、あわせてオークラホテルさんには大サービスを要請した。

結果は、それまでの六百八十二人をほるかに越えて千人に近づいたのだから、その点は上々であろう。若い層、女性会員の出席も大いに増えた。しかし、来会された各位がどんな印象を持ってお帰りになったかということになると、独断と偏見に近くなるころがある。率直な意見をいただきたい。とにかく懇親会開始早々に実行委員諸君が青くなった。食べ物があったという間に姿を消してしまつたのである。ホテル側には、あら



はじめ「高尚な料理よりも量を重視してくれ」と伝えておいたのだが、ホテルとしても踏み切るには限界があつたと見えて、結果は相対に結構なものばかりが並んだ。加えて、前年までは四時からの開催、今回は六時からの開催で、胃袋の状態が全く違つたのを読み切れなかつた。

立食主体の原則ながら大先輩のためにイス席を若干用意したのだが、大先輩はあまりお食べにならぬこともあつて、そのテーブルの上だけに食べ物があり、その他大勢は――という現象に、大先輩のテーブルの上から移すやら、「ポテトチップスでもいいから出して来い」とホテルにかけ合うやら、臨機の働きを実行委員諸君がやっ

てくれたが、カバーしきれなかつた点が第一の反省材料。二つの宴会場とその間のロビーをつないだ形にしたために、対岸の宴会場にいた方たちには、総会の進行状況がほとんど分らない状況になつた。ステージをロビーの真ん中にした方が、良かったかも知れない――等々、舞台裏からすれば、それなりに反省も喜びも新たな総会であつた。

総会は、できる限り多くの同窓生が集まり親しむのが基本という鍵賞会長の熱意により、出席者の増大を続けて来たわけだが、二十名に達しようという五十五年度総会は、また新たな水準を画したのもといえよう。もともと毎年が試



行錯誤の過程だと覚悟している。修正すべきは修正し、さて今年の総会はどうするのがいいかと、思案しているところである。  
（幹事長 上村光司 50回）

# 渡部脩治さんの ご逝去と秋州道人

38回卒 近藤 圓



自ら会員を希望され、毎回出席して元気なお姿を見せて下さつたものである。

その渡部さんが去る十一月二十五日朝にわかに逝去なさつた。私はかつて渡部さんに「あなたのお顔はいつも艶やかで若々しくお見受けしますが、何か特別の健康法をおやりですか」とお訊ねしたことがあつた。その時の返事は「私は朝風呂が大好きで一日も欠かしたことはありません。これが私の健康法でしょうか。大好きな朝風呂で死ねば、私は本望なのですがね」と申されたが、その朝もいつもの通り大好きな朝風呂に入られ、そのまま浴槽の中で死んでおられ、望み通りの大往生で満八十五歳の生涯を終えられたのである。弔いにおいでのお寺様のお話によると、入浴中の死は最高の死に方なのだそうである。

渡部さんは明治二十八年村松町で出生、少年の頃新潟の浜で遊んでいて、急に両脚が関節炎を越し、両脚共切断しないと命はないと医師の宣告を受けた。脩治少年は死んでもいいから切断はいやだと駄々をこねて断つた。以来脚の不自由のまま一生を過ごされた。しかし脚は死ぬまで痛み通しで、風呂はこの痛みを柔らげる何よりの薬で朝、昼、晩と欠かさず入ら

れた。それでいてその痛みを顔に出したり人に語られたことは、ほんとうに我慢強い人でしたと遺族の方々は語っておられた。そういう不自由のお体で三十九年の母校の大火には、一番にかけつけて、事務の非常持出書類を全部運び出されたり、その後全国各地の同窓を訪ね学校再建の募金に活躍されたことは今も語り草となっている。自宅に温室を造つて植木を愛され、特に椿の栽培には名人だつた渡部さんのエピソードは沢山あるが、会津八一先生との話を紹介してお悔みしたい。事務官の仕事の一つとして、或る古い書類を焼却することに、明治時代のもの整理しておられたら、（今では有名で早大東洋美術陳列室所蔵）会津弥次と署名のある「端脱会願」という掛紙が見つかった。これは燃やすには勿体ないと思ひ取り珍重しておられた。昭和三十年新潟大火の年、長女の夫君の伊藤寛之氏（カメラのデザイン）社長から会津先生に「私の岳父が斯く斯くの物を持っていてます」と申し上げた。先生は非常に驚かれ、是非自分にくずすべく

れないかと頼まれた。渡部さんも欣んで先生に差し上げられた。その時の先生の話「当時の端脱部は実に練習が酷しくて、勉強するひまもないほどで勉強したい僕はとてついてもついでにけなくなつた。然も退部を申し出ると、今のやぐざの世界同様で、なぐるけるのりチを受けたもので、自分はそれがいやさに、ちゃんとした退会願を出してやめたのだ。これが確かにその時に書いたものだ。弥一という名か、これが本名の僕の名前なのだ」こんな関係からか、渡部さんは格別に先生に可愛いが、先生が母校へ来られると、校長は墨をすつて待ち、揮毫をお願いしてもその方は断られながら、「渡部君、君には書いてやろう」と言つて筆をとられたという。ここに掲げた「道法自然」もそれらの一枚で、関防印や落款の印がないところは如何にも即興の書らしく、親しみがうかがえるように思ふ。ああ誰からも愛され、やさしかった渡部さん。

道法自然

會津八一

戒名は釋亮勉、皆様と共に冥福をお祈りしましょう。南無阿弥陀佛 合掌

# 追悼 内山巖先生

60回上 杉雅之  
(校内幹事)

長年にわたり本校ならびに本校青山同窓会の発展に尽された内山巖先生は、昨年急性胃潰瘍で倒れ一時小康を得ていたが、信楽園病院での必死の薬石の効なく9月27日逝された。

先生は、昭和二十一年から昭和五十一年まで旧制新潟中学校、新潟高校教諭として後輩の御指導にあたられた。担当教科の物理を通じて、またその他の教育活動で、先生の温厚にして滋味あふれる御薫陶を受けた後輩は数多い。



昭和四十四年沢山巖先生御退職

後、青山同窓会校内幹事として、八十周年記念事業の推進力の一翼を担われ、大きな成果を示められた。

先生は飄々としたお人柄で、人を選ばず交じわりをひろげられ、先徒からも「ガンさん」「ガンさん」の愛称で慕われた。テニスがお好きの先生で、授業のない午後など必ずといってよいほど、先生のお姿はコートにあった。御退職後も、健康維持のためと、よくコートを訪れておられた。まだまだこれからの先生の若さだったことを思うにつけ、病魔の非情さを憤らずにはいられない。

ここに内山先生の冥福を心から祈りあげ、筆を折る。

(元海軍軍医大佐) ▲河路貞夫君、新潟精神病院顧問、前健康保険新潟病院院長 ▲河辺昌平君、沼津で河辺内科医開業。▲倉品克一郎君、西蒲西川町で産婦人科倉品病院開業(県教育委員で名高かった)。▲高橋松藏君、ミノフアゲン製薬(顧問)元京都市診療所長。▲密田捷君、東京渋谷道元坂上を高壮なミッド診療所開業。▲村山采芝君、北蒲葵寺町で村山耳鼻咽喉科医開業(日本画の余技は素人の域を脱した画伯)。

# 寄稿 30回而立会

旧職幹事石田瑞穂さんの訪問を受けた。沼垂の名医河辺昌平先生に同窓会会報に随想一篇をお願いした。あなたに頼めど名指しされましたのでよろしく、との事であった。何を書いたらよいかと尋ねたら、同窓生の近況でも自慢話でもよいとの事で、つい引受けてしまった。

まず而立会の会名由来から始める。卒業式の夜イタリヤ軒での謝恩会の席で、クラス会をつくる話が出た。その時国漢担当の芋虫(田村又四郎先生)が『論語』の「三才而立」は有名な句だ、三十回卒

業だから而立会ではどうか」と言った。これが本会の会名起源となった。而立会員で活躍した面々中ではまず第一に名市長渡辺浩太郎君をあげなければならぬ。市制施行以来新潟市長は、一人近く出たが、彼ほど市の発展に役立つ大事業を行なった者はほかにいない。不毛な砂丘地に堀込港灣・新潟東港を建設し、臨海工業地帯を造成して、新潟港を日本海側の代表港に定着させた功績は不朽である。市長はやめても日本港湾協会会長の要職は十数年を統括しても不動である。

現在在健在活躍中である。▲阿部功君、新潟県労働衛生学協会会長

▲山添直君、小田急電鉄(株)専務取締役退任後、小田急不動産(株)社長、現在は小田急電鉄(株)本社顧問。▲中居直一君、日本軽金属(株)常務取締役、現在同社顧問。▲片桐義礼君、日本郵船(株)常務取締役、停退後、水川商事(株)社長、現在同社顧問。▲湊元克吉君、日本教育図書(株)常務取締役、西蒲巻町に隠居住宅新築、現在悠々自適。▲南宏君、三菱商事(株)海外派遣員として中南米・中東東諸国で棉花買入れに活躍十数年、三菱商事大副支店長、三菱綿花部の総師となり、停退後、太陽紡績(株)社長、現在棉花貿易会社の栄大(株)顧問。

而立会から七人の医学博士輩出、現在皆健在活躍中である。▲阿部功君、新潟県労働衛生学協会会長

# 青山渋柿会

## 楳木美術品鑑賞と花火見物

復活第四回青山渋柿会(新中寄宿舍同人の集まり)が去る九月十六日開催された。今回は会員吉川恒吉氏のお宅が内野新川の近くの高台にあり、そこから見る内野祭の花火が素晴らしいというので、氏には甚だご迷惑ながら吉川邸に会場をお願いした。ところが嬉しいことに本誌五十五年一月号に67回波多野茂春氏が写真入りの紹介をしてもらった「楳木邸収蔵美術品鑑賞記」の楳木氏邸が、吉川氏へ行くバス停の前にあるので折角の機会ゆえ、その美術品を觀せていただいていたということになった。

当日は四時頃より続々集まり、楳木家の茶の間は青山一色みたく伯の古い新中校舎の掛物を掲げて頂き一層青山気分は高潮して行った。今回は珍しく多忙の中を代議士阿部助哉君もかけつけてくれたが、ヨド号事件で勇名を馳せた同君も居並ぶ先輩連の前では末席で神妙にしていたが、この謙虚さは同君の人柄であろう。

楳木氏蒐集の美術品については波多野氏の記事でご推察頂きたい

が、土蔵の二、三階と地階の内部を改造した展示室の品々、特に焼物類の数の多さと銘物揃いなのに、は皆々驚、時の経つのも忘れて鑑賞させていただいた。

楳木氏より「本県品評会で一等賞を受けた酒です」と贈られた銘酒鶴の友二本を下げて吉川家に席を移した。吉川老手作りの枝豆やとろろきびで宴は盛り上る、話題は前号の近藤百之氏の「思い出ばら」的懐旧談に花を咲かせているうちに、花火はドンドン上る、見たり飲んだり食ったり語ったりで花火の終りと共に散会した。老

- 渡部脩治(元母校事務員)
- 永井行蔵(33日本歯科大教授)
- 佐野賢一郎(33新潟交通専務)
- 吉川恒吉(36元会社社長)
- 内田善衛(35元中学校長)
- 近藤百之(36元高校長)
- 細野哲雄(38「長野」清泉学園)
- 高所太三郎(36農畜中央会 副会長)
- 武田博三郎(35元中学校長)
- 近藤園(38ピコイ白蠟 研究所常務)
- 吉川恒吉氏夫人

付記「医学博士密田捷君は昨昭和五十五年十一月二十六日死去されました。また長野県諏訪大社権宮司久我久丸君は去る昭和五十四年に死去されました。遥かに両君のご冥福を祈ります。



寄稿特集

酒中の仙

イランアカデミー客員 (74回卒) 五十嵐

酔うて沙場に伏す、君笑うこと勿れ、という漢詩の一節がある。簡明な詩句であるが沙場を素直に砂漠と見るか、戦場と解釈するかで分れるらしい。最近もある新聞紙上で尚説をめぐつての応酬があった。

ヘランの外人相手のレストランでは、在庫分を僅かに供していたが、量も少く値段も一昨年の倍で、年ビール一本が二百円近くに上がっていた。

くの飲酒詩人を産んだ中国では、酒に酔うことの裡に拓けてくる新たな境地、さらに酔い醒めの後に得る知恵を尊び、これを酒中の仙とか卯飲醒と称した。いや酒聖賢というのが如く、酒そのものが聖人賢人に喩えられた。

同様の文化がイスラムにもある。神とわれとが一つになる様子を酒と酒杯に喩え、一気に飲み乾して酔う所に神の愛を確かめる。酔いこそが日常性のしがらみを断ち切り、真の知恵、目醒めへと誘う契機となる。まさに酒はベルシ

アの伝説上の英雄が尋ね求めたという生命の水(アーベ・ハヤート)に他ならない。

もつとも酔いの陶然たる様子は良いが、悪酔いの醜態は無様である。なかでも他人から見れば悪酔い、泥酔としか映らないのに、当人だけが酔ってないと思うのは見苦しい。

皇帝時代のイランは急激な近代化を目指し大意識に酔っていたが、実情は石油という悪い酒に足を取られたようなものであった。

意惰な私は妥協を好むから砂漠の戦場と解釈すればよいと漠然と考えるが、細かい人には笑いの質が問題のようである。戦場で敵に寝相を見せる愚を笑う詩と見做す説の方がやや優勢のようであった。

しかしイランの砂漠地帯で寝起きた実感から言えば、素直に砂漠の生理を詠んだものと思える。なぜならば昼と夜の温度差が著しい砂漠である。クーラーをつけたまま寝入っても眺方には毛布が必要となる。何度も腹を下した経験があるだけに、砂漠に酔眠して下痢をする愚を笑う詩と味う方が私には親しい。

もつとも中には戦時中の日本と同様、エチルにまで手を出す御仁もいるようで、南のI J P C サイトを訪れた時、アルコール中毒と噂されるイラン人医師に会った。彼はしばしば消毒用アルコールを失敬すると言った。新聞は相変わらず密造酒を警告していたが、巷にはかくして種々様々な般若湯が出廻っていたようである。

もつとも中には戦時中の日本と同様、エチルにまで手を出す御仁もいるようで、南のI J P C サイトを訪れた時、アルコール中毒と噂されるイラン人医師に会った。彼はしばしば消毒用アルコールを失敬すると言った。新聞は相変わらず密造酒を警告していたが、巷にはかくして種々様々な般若湯が出廻っていたようである。

もつとも中には戦時中の日本と同様、エチルにまで手を出す御仁もいるようで、南のI J P C サイトを訪れた時、アルコール中毒と噂されるイラン人医師に会った。彼はしばしば消毒用アルコールを失敬すると言った。新聞は相変わらず密造酒を警告していたが、巷にはかくして種々様々な般若湯が出廻っていたようである。

もつとも中には戦時中の日本と同様、エチルにまで手を出す御仁もいるようで、南のI J P C サイトを訪れた時、アルコール中毒と噂されるイラン人医師に会った。彼はしばしば消毒用アルコールを失敬すると言った。新聞は相変わらず密造酒を警告していたが、巷にはかくして種々様々な般若湯が出廻っていたようである。

もつとも中には戦時中の日本と同様、エチルにまで手を出す御仁もいるようで、南のI J P C サイトを訪れた時、アルコール中毒と噂されるイラン人医師に会った。彼はしばしば消毒用アルコールを失敬すると言った。新聞は相変わらず密造酒を警告していたが、巷にはかくして種々様々な般若湯が出廻っていたようである。

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

もつとも酔眠しようにも昨今のイランでは酒が買えぬ。革命後七九年、八十年と二度訪れたが、昨年はずつと事情が悪くなっていた。かつては銘柄を考える暇もあらばこそ、とばかりに番号で区別したほどに豊富なブドウ酒を産出した古都シーラーズも渴いていた。テ

接近してイランはいらんぐの態度を鮮明にするなど、中東やEC諸国からその神怪を疑われているからである。

まさか質の悪いバーボン辺りで悪酔いさせられた訳ではなからうが、軍備拡張論や中東への武器輸出論まで飛び出してくるのは聊か悪酔いに過ぎる。元来は静かに酒中の仙を楽しむたい私も、電

中でのござるぞん？とばかりに、かかる酔漢の暴論に応酬せざるを得ない昨今である。昨年のイラン調査旅行は通産省および中東協力センターの依頼によるもので、既にそのレポートを提出してあるが、一般向けには、文化会議(八〇年十一月号)、中央公論(八一年二月号)などがお目にとまれば幸いである。

年新潟県出身者は10名に達しないこともありました。従いまして、新潟県人寮もはるかに昔に消滅し、現在では北大の学生寮の一つとして残っております。

北海道よりの便り

『I君へ』

北海道大学医学部(衛生学教室) 67回 本間 寛

I君、君からの懐かしい手紙、この年末、本当に晴やかな時を過ごすことができました。

I君、北海道はそちら本州とは趣を異にしていることは、君もよく御承知のことと思います。面積は、東北八県に新潟県を加えたものにほぼ等しく、人口は約50万人、そのうち2割以上が札幌市に集中しております。観光の北海道、冬季オリンピックの札幌など、華やかな意味では多くの人が既に豊富な知識をお持ちのため、その方面の事柄は省き、あまり知られてない特徴をのつ程記してみます。

I君、君からの懐かしい手紙、この年末、本当に晴やかな時を過ごすことができました。

I君、北海道のことは御存知でしょうか。

確かに多くの人達が当地を訪れ、去っていきますが、殆んど観光客としてであり、小生の様に二昔前から住んでいる青山同窓生は少いことと思えます。

I君、永い無沙汰の後のため、あるいは年賀の酔いのためか、少し饒舌になりましたかもしれません。いずれも小生の独断と偏見に基づいて記してみました。また、君の御存知よりの同窓の皆さんによろしく。

I君、君からの懐かしい手紙、この年末、本当に晴やかな時を過ごすことができました。

I君、北海道のことは御存知でしょうか。

確かに多くの人達が当地を訪れ、去っていきますが、殆んど観光客としてであり、小生の様に二昔前から住んでいる青山同窓生は少いことと思えます。

I君、永い無沙汰の後のため、あるいは年賀の酔いのためか、少し饒舌になりましたかもしれません。いずれも小生の独断と偏見に基づいて記してみました。また、君の御存知よりの同窓の皆さんによろしく。

I君、君からの懐かしい手紙、この年末、本当に晴やかな時を過ごすことができました。

I君、北海道のことは御存知でしょうか。

確かに多くの人達が当地を訪れ、去っていきますが、殆んど観光客としてであり、小生の様に二昔前から住んでいる青山同窓生は少いことと思えます。

I君、永い無沙汰の後のため、あるいは年賀の酔いのためか、少し饒舌になりましたかもしれません。いずれも小生の独断と偏見に基づいて記してみました。また、君の御存知よりの同窓の皆さんによろしく。

# 二十年振りの新潟

67回 荒井正蔵

昨年の七月、転勤で新潟へ引越して来た。高校卒業以来、京都で学生生活を経て、就職（東京海上）してからは、金沢、東京（鎌倉）名古屋と住所が変わり、約二十年ぶりの新潟ということになる。その間、出張で、北海道から九州まで、色々な町に立ち寄って来た。欧米の大都市のいくつかを垣間見る機会もあった。

仕事の場を転々とする者にとって、「故郷」を尋ね合うことも、初対面の挨拶となる。新潟生れと聴くと、米や、雪や、あるいは田中

## 娘の卒業式に 参列して想いごと

通信制6回 井村助治

昨春三月十八日、娘の卒業式に列席すべく久しぶりに母校に足を向けた。式場の体育館内には先着の父母兄弟等が父兄の着席する椅子の六割近くをうずめていた。思えば昭和三十九年三月二十一日に新潟県立高等学校の通信制課程をなんとか修了した小生が、全日制の卒業生に交ってまだ真新しくかつたこの同じ体育館で青山の同窓生として迎えられた時の光景が、昨日の事のように思い出され感慨

京都や、名古屋が所謂「地方」に入ることかかわらないが、新潟を離れてから居を構えた各都市は、その持つ個性がからまつて、それぞれに魅力的であった。

前任地の名古屋などは、「名古屋モノロー主義」とか「偉大なる田舎」とか、世評は芳しくないが、堅実経営の優良企業も多く、そのしたたかさには、教えられることが多かった。「地方の時代」は、高度成長の終焉に伴って唱えられ始めたことを考えれば、それぞれの町がその機能や美しさを見直す時代に突入しているのは間違いない。一時火が消えたようになつて地方の夏祭りが、最近、年を追うごとに、盛んになってきているのも、その表われのよきな気がする。

が卒業の名譽を受けて青山同窓会に迎えられているような錯覚におそわれた。これは十数年ぶりに味わう感激であつたが、この感激を胸に秘め、思いを過去に馳せさせた。するとあの頃の学友たちがぎつぎつぎに思い出された。その後も皆達者で生活しているだろうか。無事に迎えられるだろうか。一度皆んなにそれぞれの分野で精一杯頑張っているだろうか。一度皆んなに逢い度いなあと思ひながら帰宅した。それから間もなく学友の高橋崇治氏、片原さん、今春の同窓会に出席しないかと云う誘いの電話を受け、「も、も、も、喜んで出席することを快諾した……」。

新潟へ初めて移住してきた人は、降る雪に愚痴の二つ三つこぼすけれど、他国生れの人々にも心の壁を作らない人情の厚さを異国同音に認めてくれる。私の経験から云つても、移り住んでくる異邦人になかなか胸襟をひらこうとしない「地方」都市が多いなかで、この人情、この開放さは、何にも替へたい貴重財産であると思つて改め

が企画されて、躍動感に満ちているが、この開放こそ、躍動のエネルギー源にもなつていゝし、今後ともなりのうのではないか。そんなことを考えながら、鱈切りを肴に越の寒梅で一杯いことにしたい。

ア軒に設けられた式場に入つて行つたが、そこには懐かしい恩師、山田源行先生や上村先生の元氣な御姿を拝し、ほつとする思いであつた。幹事の案内で指定された席に着席し、周囲を見わたしたところ意外と古い。同窓生の少ないのに少しがっかりした。

を踏み台にしてこれから大きくはばたいて行こうとする若立の姿があつた。和やかなムードのなかで式が進行して行く過程で竹内部長から通信の同窓生も千数百名に達したことを聞き、その後も着実に発展を続けている通信制に拍手を送ると同時に、これも一重に関係者一同の暖かい支援とそこに学ぶ学生諸君の真摯な努力の贈物であると思ふ確信を抱いて再び会場

こうして同じような環境のなかで学び一つの青春を送つた仲間が時々雑文を結ぶ。

昭和16年生れ、今年30代の最終コーナーを迎え社会の中枢で活躍している中年が20年ぶりに一堂に集つた。この会の出席するたびにいつも感ずることだが、しよつ中出て来る顔ぶれはおよそ決まつているので、「積もる話も何も無い。逆に久しぶりに会う顔は、直接か又はこつそりと他人に名前を聞くところから始まるので、これほどでもぎこちないものである。加えて私は昔から人の顔を記憶する力が極めて弱く、恩師にお会いしても何の教課だつたか聞いてようやく思い出す始末である。まして高校時代の細かい出来事など覚えていない。何か特別な能力があるのだろうか」と感心しながら

を忘れて歎談しあうなかにいると心が洗われるような思いとなる。そうして、よし明日からまた頑張つて精一杯に人生を生きて行くぞというファイトが心の底からふつと湧き出て来る。これはこの会場ならではの味わぬ気分であり、今後とも可能な限り同窓会には出席して行こうと誓いを新たに退席した。同窓会の為は何もしてやれぬ無力な、会員ではあるが、関係者のお力えにより、この青山同窓会が増々発展することを祈念し雑文を結ぶ。

「わが世代、昭和16年生まれ」の中で真崎守がこんな一節を語っている。「そろそろ責任ある地位についておかしくないところに昭和16年生まれがあり、なぜかそのように位置していない現実があります……中略……地位に対する欲望が稀薄なのか、束縛を回避する気迫なのか、よく判らない」

いずれにしても歴史的な激動の時代を背景に育つた我々の世代、良かれ悪しかれちょうど折り返し点に達したところである。

次の同期会迄、あわてずマイペースでいきたい、次回、より多数の御出席を期待します。

## 折り返し点 20年振りの旧友

68回 岩原修

他人の話も聞いては過ぎない。こんなありさまなのに結構よく出席だけはしている。成長の程度と比較など云うかしまつた事ではなく、肉体的な老化の比較が、それとも唯わけもなく人恋しく思う中年になつたせい、理由などはなく酒さえあれば良いのか、いろんな理由が混ざりあつて自然と足が向くのだからと思つている。

去る一月三日、恒例となつた山岳部O・B会が東郷のエクセルで開かれた。今まで新年会といえは市内の座敷でやるのが普通であり、スナックで開くのは今年が初めてのことである。当初20、25名の参加を見込んでいたのだが、相変わらずの新潟時間で、開会後1時間してやつと全員が揃。先発隊はすでに酩酊。それでも、今年は遠く札幌からも参加があり、昔話あるいはこれからの事などの話に花が咲く。飲む程に酔う程に、全員参加のカラオケ大会、狭い店内に名声いやドラ声響き渡る。

## 山岳部

クラス会・諸会合

青山三八会の集い

新潟に育った者にとって、日本海と信濃川は終生忘れ得ぬつかしい思い出をはぐくんでくれる。第三十八回卒即ち青山三八会は、信江の流れを望みながら級友田中社長の好意を一杯を受けて田中ホテルで春秋一回の集りを持つのを例として来た。昭和五十五年八月九日東京方面在住の諸君にも呼びかけ、趣をかえて奇しくも同名浜茶屋三八で会合した。

列車の混雑にも拘らず在京の四名を加え、総勢廿七名の参加を得て、久しぶりに海の潮風を満喫しながら歓談の時を忘れた。連日の冷夏で折角の水浴希望者の念願も適はぬかと思はれたが、幸にして天候もまずまず水温も割合に高かった(そうだ)ので、幹事も計画倒れにならず胸をなでおろした次第であった。グミ原のおもかげもなく砂浜もせまくなり、テトラポットだけがいに眠につく殺風景なう海浜となっても尚五十年の星霜が偲ばれ、感無量といったところであった。



淋しい限りではあるが、こうして久しぶりに同志相集い応援歌を方ナリたてながら盃を挙げていると、半世紀前に生まれ変わったような錯覚にとらはれる。

いいんだな 友達は一殊に旧制中学校時代の五年間は何とも言はれぬつかしい思い出にひたらせてくれる。何はさておき健康第一でこれから的人生を更に楽しく有意義に生きようではないかと語り合った事である。(山口 記)

第42回生同期会

われわれ第42回生は同窓会名簿を見て、逝去者数が他の回に比べて圧倒的に多い。



これは日本の平和建設のために礎石となった学友がいかに多かったかを示すものである。あたら青春を無謀な戦争にささげたむなしさを痛切に感ずるとともに、犠牲になつた学友の死を無にしないよう、自由で平和な世に役立つよう頑張ろうと死につばぐれの連中は堅く誓い合っている。さて、われわれの同期会は毎年11月の第2土曜日に相集うことが恒例になっている。今年11月8日(日)同期生篠田君の経営する篠田旅館で29名が出席して開催された。

鈴木(一)君の司会により会は進行され、まず各人の自己紹介がなされた。

ままだが、皆青山健児の意氣は少しも衰えを見せずにおり、力強い限りである。田中(正)君からは東京方面在住の連中の健在なことが紹介された。県外から駆けつけたものは、仙台市の横濱君(初参加)、東京都の田中(正)君、国分市の高橋(宏)君等であり、また柏崎市から毎回欠かさず出席している重田学君(旧姓野口)、北魚沼の僻地で献身的に医療奉仕をしている高橋(吉)君、これも初参加の高橋(欽)君が、珍客として、常連の歓迎を受けて、会は盛り上がった。

第48回生月岡に集う

第48期恒例の秋の総会は11月8日(土)、秋色濃い五頭山麓、月岡温泉のホテルひさぎ荘で開かれ、前日からの低気圧で道連れられたお天気に尻上りに晴れ、仲間のお愛車に便乗して週末のドライブを楽しみながら二々伍々と集合しました。

一定刻午後六時、出席22名。卒業以来初めての林(旧姓齊藤)健蔵と寄つてきてドヤドヤと交流したり、陣がそっくり向い側へ移つたり、の連続に、座持の芸妓も面喰らつていた。

時々の縁つのを忘れさせた。玲瓏の天仰ぐときと校歌を高らかに斉唱し、阿部(辰)応援団長の往時を偲はせる熱のこもつたりドによる3・3・6拍子の拍手をもつて締めくくり、来年の再会を期して閉会となった。

最後に紙面を借りて、病床で療養を続けている学友の一日も早く回復されることを心から祈り上げます。(菊地 生)

これより先、ゴルフ組は近藤源資幹事がキモ取り、朝からフォレスト・ゴルフクラブでコンペをもちました。メンバーは、ほかに阿部慶二、大塚輝善、鈴木勇、戸川喜代一らの諸君。「こちらの集合

「30数年ぶりが、顔を見るとすぐわかる。きのうも逢つたばかりのように、肩書も何も分け隔てなくバカを言い合せて、いやア楽しい」と鶴巻、林面君らは感無量。歓談二時間余、話の陣は乱れつつ、芸妓の三味も踊りも出る幕はなかった。

最後に恒例の応援歌合戦。待つてましたと競技部で鳴らした阿部、大橋両選手が登場、手振りもひと

間健四郎幹事が「ハイ、それまで」とストップをかける。話題はひところ賑わつた。娘にいい人を、息子に嫁を、という嫁むこ情報の交換が下火、代わつて孫の自慢に花が咲き、それぞれの年輪を偲はせる。献酬はすぐ無礼講となり、思い思いに輪ができる。思ひ出話に出てくるので、「な、オ、オ」と隣り

「30数年ぶりが、顔を見るとすぐわかる。きのうも逢つたばかりのように、肩書も何も分け隔てなくバカを言い合せて、いやア楽しい」と鶴巻、林面君らは感無量。歓談二時間余、話の陣は乱れつつ、芸妓の三味も踊りも出る幕はなかった。

「30数年ぶりが、顔を見るとすぐわかる。きのうも逢つたばかりのように、肩書も何も分け隔てなくバカを言い合せて、いやア楽しい」と鶴巻、林面君らは感無量。歓談二時間余、話の陣は乱れつつ、芸妓の三味も踊りも出る幕はなかった。

最後に恒例の応援歌合戦。待つてましたと競技部で鳴らした阿部、大橋両選手が登場、手振りもひと

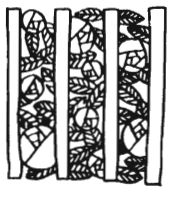
間健四郎幹事が「ハイ、それまで」とストップをかける。話題はひところ賑わつた。娘にいい人を、息子に嫁を、という嫁むこ情報の交換が下火、代わつて孫の自慢に花が咲き、それぞれの年輪を偲はせる。献酬はすぐ無礼講となり、思い思いに輪ができる。思ひ出話に出てくるので、「な、オ、オ」と隣り

ツトを披露。あまりの腰つきに給仕の仲居さんたちは声をのんで眼を見張るばかり。次々と運動部が指名され、応援歌の総ざらいだ。遠く忘れていた歌詞もなつかしい節回しにつれて奇妙に思ひ出されてくる。どんな歌詞でも、いつも大声でリードするのは大橋君と小川(旧姓)清常君の特技である。誰かが敗戦歌を歌い出すと「まだまだ」と制止し、別の新しい歌を歌い出すのは大橋君だ。この間およそ30分。最後は校歌で歌い納め、万才を速来・田村君の音頭で三唱した。

ひとまず解散して麻雀組は離れの部屋へ。他は思ひ思いに部屋に集まつたり、夜の街へ。一団が寝静まるころ、酔覚めて起き出した連中がまた集まり、徹夜したのは麻雀組だけではなかった。麻雀の優勝は川島由郎君で、さすがに国鉄OB名を取すかじめなかった。

明くればまずまずの晴れ。午前8時から朝食会。朝酒の音頭は初出の林君がとつた。来年は卒業40周年のなかで、変わった趣向で議論百出。決定は持ち越し、再会を約して解散。愛車を駆つて、奥胎内の紅葉狩りに、また休日の行事へと散つて行った。(都築弘記)

明くればまずまずの晴れ。午前8時から朝食会。朝酒の音頭は初出の林君がとつた。来年は卒業40周年のなかで、変わった趣向で議論百出。決定は持ち越し、再会を約して解散。愛車を駆つて、奥胎内の紅葉狩りに、また休日の行事へと散つて行った。(都築弘記)



新潟高校第66回卒業生同期会

第66回生一堂に会する



うつすらと汗ばむような、小春日和の昭和五十五年十月十八日(土)イタリヤ軒のサンマルコで、盛大に催されました。

恩師、松田一郎、渡辺秀英、松浪清、齊川正敏、岩野祐吉、澤山巖、菅原欽一、横山貞雄の八先生の御出席をいただき、お互い四十才の折り返し点を越えたいばかりの七十名(内女性九名)参集。遠く仙台、山形、栃木、千葉、横浜、東京等からも大勢駆けつけてくれ、なつかしい昔に戻りました。

学校火災の翌年(昭和三十年四月)に入学。入式式は関屋小学校で、焼け残った体育館を任切り。更にブラック建六教室を使つての二部授業……等々不便をかこつた高校生活ではありましたが、思い返せば、それはそれなりになつかしい三年間でした。

髪に交じる白いもの以外、全く昔と変らぬ諸先生方の、若々しさに思わず感嘆の声ががりました。先ごろ数種から帰られたばかりの

渡辺秀英団長先生の、漢詩の色紙五枚を、十四倍という競争率で抽選。運良く当つたものは、家宝におしといたいて帰りました。

肩をたたき合い、手をにぎり合つての歓談、記念撮影、余興と宴は次第に盛り上がり、最後は互いに肩を組み合い、会場一杯の輪を作り、校歌、応援歌の大合唱は、次から次へと後を断たず……。

九時すぎ近いうちに又会おうと再会を約しながら散々行きました。毎の二次会へと散つて行きました。

七月の青山同窓会あとの二次会に出席した有志の間で、久しぶりの同期会開催の話が出てから、わずか三ヶ月の準備期間。数名の幹事からだんだんと協力者が増え、短期間のうちに七〇名の出席者が集まりました。住所不明の人や、連絡もれも多かったのに、最終的に二十名近く増えた幹事の皆さんの御苦労は、並大抵の努力ではなかつたと思われず。

これにこりず、近いうちにもっと多くの人達に呼びかけて、より盛大に同期会をやりましょう。

新津地区同窓会「秋葉会」が開かれました。出席者数約25名、皆様各方面で御活躍の方々と、若輩の私は最初、場ちがいの様な気分でしたが、各人の近況報告を交へての宴席が進むにつれ気分もほぐれ、和氣騰々としたものになりました。当日は会期中御多忙の舩佐藤代議士、巒田県議も出席され、議会の話題など楽しく話されました。

しかし新制高校卒の若い方は少なく若さという点ではいま一步の感があります。年一回の集りですので、市内及び近郊に在住の方、おために来られている方々の年令を問わぬ参加をお願い致します。若い力を合わせ秋葉会を益々発展させましょう。

最後に諸先輩の皆様、後輩の方々の今年一年の御活躍をお祈り申し上げます。(石井記 昭46年卒)

新津地区同窓会「秋葉会」に参加して

新年おめでとございませう。昨年11月29日新津市「春雨」に於いて

寄稿

キャンパスだより

筑波大学 1年 長 田 裕 (体育専門学群)

東京・上野より常磐線で約1時間、土浦へ、そこから西へ約10キ

口、常陸野のまった中、筑波山を後方にひかえる広さ一四五万haの大学、それが筑波大学である。筑波大学という必ず聞かれることが二つある。一つは「何県にあるか」、次に「何学部があるか」ということである。最初の質問には、茨城県ですが、二つ目の質問は、ちよつと答えにくい。というのは、学部制度をとっていないからである。第一群、第二群、第三群、医学専門学群、体育専門学群、芸術専門学群と分かれている。専門学群は、いいとしても他の学群を説明するのがまたやつた。一つひとつの学群が文・理系同居のいわば、ミニ大学のようになっているからである。

さて、「筑波」に入學して、驚いたのがキャンパスの広さ。広いとは聞いていたが、東西15km、南北4kmのキャンパスは、地方の国立大学の新しいキャンパスの約10、20倍はあるだろう。入学案内にもあった「新入生は、自転車かバイク持参」がうなづける。校内バス(無料)も走っているが、講義に間に合わなかつたり、停留所が遠かつたりして利用することが少ない。全員入居制。個室は、約10㎡、イス、ベッド、本棚、洗面台付。二入部屋が約20㎡、このくらいあれば学生生活には不便を感じさせない。各地区には、共用棟があり、生活必需品や食生活には事欠かない。つぎに学生宿舎。ここでは寮といわずに「宿舎」という。地上4、6階の建物で、各地区に10、30棟はある。新入生は、原則とし

て、私の一日の生活はというと、午前八時起床、朝食後、バイクで授業へ、午前九時、午前十一時四十五分まで午前二時限、午後十二時四十分、午後四時五十分まで午後三時限の計五時限編成の授業で1時限が75分である。授業が終わると野球場へ一目散。好きな野球の練習が待っている。練習が終わるのが午後十一時三十分。冬の日は、とつぷり暮れ、ナイターの冷たい照明だけが光っている。霜の降りかかたら、雪を整理し、宿舎に着くのが八時三十分。すぐ共用棟のフロア。夕食をとってホッとするのが十時である。それからお勉強!大学生がするわけがないと思うだけは絶対に欠かせない。というのは、学年末に全学群共通のテストがあり、その得点で成算(単位の認定)をしようというからである。他の教科は、期末テストになるまで、レポートがない限り余りやらない。その時の宿舎生活は自由で、友達との部屋に押しかけて駄々たり、TVを楽しんだり、時々開かれる各種のコンパに参加したり、4人でテーブルを囲んで中国語の勉強をしたり、ベッドに入るのが一時過ぎることが多い毎日である。

最後に一言、自己紹介で「新潟高校出身」といっても甲子園組の多い我が野球部では、誰も知らず肩身の狭い思いをしたので母校、青山の野球部が、一日も早く甲子園の土を踏めるよう祈つてます。

防衛にいがたより掲載 新春を迎えるに当り

防衛大学校 第一学年 鈴木 峰 浩 (白根市出身)

私は、新春を迎えるに当たり、次の三つを努力しようと考えています。その三つとは、勉学・体力(精神力)、社会知識です。学力的面では防大は、他大学と比べると教育内容などは同じか、それ以上であると思います。しかるに防大では、勉学と校友会活動主として運動部の両立が原則ですので、各種のコンパに参加したり、4人でテーブルを囲んで中国語の勉強をしたり、ベッドに入るのが一時過ぎることが多い毎日である。

最後に一言、自己紹介で「新潟高校出身」といっても甲子園組の多い我が野球部では、誰も知らず肩身の狭い思いをしたので母校、青山の野球部が、一日も早く甲子園の土を踏めるよう祈つてます。他の大学生に比べると、自習時間は、多少制約を受けます。したがって私は、毎日の授業時間を大切にするとともに十九時三十分から二十時までの自習時間を最大限に活用し、一般大学の学生に負けない学力をつけようと考えています。体力(精神力)の面では、主に校友会活動により鍛えることができてくると思います。私はフィールドホッケー部に所属しています。この部の部員は、高校時代の経験者

は皆無であり先輩部員もすべて初心者からスタートしており、「フロントニア精神」が旺盛で我々、学生の活躍する機会も多く楽しみの多い部です。実力の方も太字リーグ戦では他大学と互角、あるいはそれ以上に戦つていて本年度全国学生選手権においてベスト8になりました。それは、他大学よりずっと短かい練習時間にもかかわらず、我々一学年を各々部員が全員一丸となつて新しい練習法や戦法を工夫して開つてきたからです。厳し創意に満ちた練習を集中してやれば、それだけ実力がつくのだという証左だと思います。私は厳しい練習に耐え、粘り強さを発揮して運動と勉学を両立させ、体力と精神力を鍛えていきたいと思

社会知識については、我々防大生は卒業後は幹部自衛官として部隊を指揮し隊員を指導しなければならぬ立場に立つので教室での授業は勿論のこと一般の読書、新聞、雑誌等幅広い範囲から知識を求めるとともに先輩や指導教官の指導・更に同期生の切磋琢磨により偏りのない円満な社会知識を身につけていこうと思ひます。以上の三つを目標に努力しようと考えています。



校歌斉唱



「乾杯」



筑波実行委員長

# 昭和55年度総会 写真特集

於：オークラホテル



抽せんは、女子会員の手に！



元氣よく「ますらお」をうたう



このころはまだ食い物もあった

◇ あけましておめでとござい  
ます。県内山手の方は大雪ですが、  
市内はますます平穏なお正月三日  
日でした。よかったですね！

◇ 長らく母校と同窓会の発展に  
つとめられた、元事務長の渡部氏、  
元校内幹事の内山氏、お二人への  
追悼の記を寄せていただきました。

◇ 前号の種木邸美術品の記事を  
見て、訪ねたという青山洪柿会の  
報告は、編集部には、うれしい報  
告でした。できるだけ、広く、高

## 編集後期

◇ アンテナを張ってニュースの  
収集につとめていますが、同窓に  
関するニュースなど、ハガキにて  
でも、同窓会事務局にお知らせい  
ただければ幸いです。

◇ 今号では、通信制の井村氏あ  
るいは北海道の本間氏にと、寄稿  
を依頼して消息をいただきました。

◇ 全国各地で活躍の同窓の近況を、  
折を見てのせたいと思っております。

◇ 時節柄注目をあびている中近  
東は、イラン通の人、五十嵐氏に  
も寄稿をいただきました。外国の  
文化、哲学、について体験の中で

◇ キャンパス便りとして、現役  
の大学生一名に登場願いました。  
各方面で若い同窓が育つておるよ  
うです。今後も折々にご紹介した  
いと思っております。

◇ 年一回発行の会報ですので、  
寄稿による文章が多くなりがちで  
す。すこし固苦しいとの声もある  
と思いますが、卒直な読後感を事  
務局宛にお寄せ下さい。今後の指  
針といたしますので。

◇ 来年の母校創立90周年に向け  
て一層のご協力をお願いします。

### 昭和54年度青山同窓会収支決算書 (自昭和54年4月1日 至昭和55年3月31日)

収入の部		備考
繰越金	325,534	前年度繰越金
入会金	670,000	全日制生徒 1人 400円×1,339人=535,600 通信制卒業生 1人1,200円×112人=134,400
会費	2,669,000	同窓会年会費 1口 1,000円
雑収入	6,522	預金利息
合計	3,671,086	

支出の部		備考
人件費	1,773,469	職員1人給料手当、社会保険料
通信費	398,885	会報発送、総会、役員会、新年会案内郵便料、振替用紙負担金
印刷費	66,100	封筒、振替用紙、予算、決算、案内状印刷代
慶弔費	22,000	会員慶弔電報料、離任職員饗別
退職積立金	50,000	
諸費	4,310	消耗品費等
会報印刷費	303,000	
会議費	252,701	年2回発行会報印刷代
卒業生記念品代	145,000	総会、新年会、役員会、会議費、東京総会、支部総会出席金費及び旅費
青陵祭補助	80,000	卒業生における湯のみ代 580分
通信制補助	193,000	東京同窓会補助金50,000円日比谷高校百年史野球部応援バス代72,500円 9,270円
予備費	131,770	通信制同窓生会費納入者 1人 500円 386人分 通信同窓会へ補助金として繰出
合計	3,420,235	

収支差引残高 325,534 (次年度繰越)

昭和54年5月8日

上記の通り相違ないことを確認致します。

監事 福山 健  
監事 沢山 巖

### 昭和55年度青山同窓会収支予算書 (自昭和55年4月1日 至昭和56年3月31日)

収入の部		備考
繰越金	250,000	前年度繰越金
入会金	790,000	1. 新卒生 1人 400円×450人=180,000円 2. 在校生 1人 400円×895人=358,000円 3. 通信制 1,200円×112人=134,000円 通信制 1,200円×112人=134,000円
会費	2,500,000	同窓会年会費 1口 1,000円
雑収入	5,000	預金利息
合計	3,545,000	

支出の部		備考
人件費	1,800,000	職員1人給料手当、社会保険料
通信費	450,000	会報発送、総会、役員会、新年会案内郵便料、振替用紙負担金
印刷費	80,000	封筒、振替用紙、予算、決算、案内状印刷代
慶弔費	50,000	会員慶弔電報料、香華料、離任職員饗別
退職積立金	50,000	
諸費	5,000	消耗品費等
会報印刷費	360,000	
会議費	250,000	年2回発行会報印刷代
卒業生記念品代	150,000	総会、新年会、役員会、会議費、東京役員本部総会出席旅費、東京総会、支部総会出席金費及び旅費
青陵祭補助	80,000	
通信制補助	150,000	通信制同窓生会費納入者 1人 500円 300人 通信同窓会へ補助金として繰出
予備費	120,000	
合計	3,545,000	





